



————— [ 発 言 取 り 消 し ] —————

**○議長（牟田勝浩君）**

2番山口等議員

**○2番（山口 等君）〔登壇〕**

わかりました。ぜひ商工会議所とスクラムを組んで武雄市のために頑張ってほしいと思います。

それでは、次の質問に入ります。みんなのバスの事業についてでございます。

このみんなのバスのモデル構築事業は、6月の補正予算577万8,000円のうち、県からの補助金537万4,000円の緊急雇用対策事業を活用した事業であります。

今回は、寄贈していただきました8人乗りの乗用車を2台使用し、北方町の追分、焼米、掛橋区と、山内町の今山区において、9月6日から11月の27日まで、日曜、祭日を除く67日間、約3カ月間にわたって、第1弾として実験運行をされました。

今回の実験運行で北方町、山内町の方々の中で、どれだけの方がこのバスを利用されたのか、また、この3カ月間にどれだけの高経費がかかったのか、まず、実験運行の結果についてお尋ねします。

**○議長（牟田勝浩君）**

山田政策部理事

**○山田政策部理事〔登壇〕**

お尋ねのみんなのバスの実験運行につきましては、今、議員おっしゃっていただきましたように、ことしの9月6日から11月27日までということで、日曜、祝日を除きまして、月曜

日から土曜日まで、67日間にわたって運行いたしております。定時、定路線ということで、両地区とも、午前中に4回、午後4回という運行をいたしているところでございます。

利用者等につきましては、北方町につきましては、3地区ですね。追分、掛橋、焼米の3地区で御協力いただいております、全部で1,405人の利用をいただいております。

性別的には、女性が多数ということで、北方につきましては89%の方が女性だったという結果になっております。また、年代別におきましても、70歳代以上が88%という形になっております。1日当たり21.0人、1便当たり2.6人という利用になっているところでございます。

また、山内町の今山区におきましては、総数で1,389人、ここも女性の割合が非常に多くございまして、82%の方が女性の利用という形になっております。また、84%の方が70歳以上という結果になってございまして、ここにつきましても、1日当たり20.7人、1便当たり2.6人ということで、ほぼ1便当たりは両方とも同じような利用結果という形になっております。

もう1点、運行経費につきましてはですけれども、運行経費につきましては、車につきましては、寄贈いただいておりますので、車の購入費用がなかったということもありますので、そこにかかりました人件費、それから燃料費、合わせまして231万5,000円程度かかっているという状況でございます。

利用者数、両方合わせまして2,794人になるわけですが、その数字で割りますと、1人当たり約830円程度の経費がかかっているという形になっているところでございます。

**○議長（牟田勝浩君）**

2番山口等議員

**○2番（山口 等君）〔登壇〕**

今回の運行経路、また停車する場所等については、区長さんを初め地元において十分検討されて運行されたと思います。この3カ月間の利用者が、両町で大体3,000人、そして対象の世帯数が北方町で690世帯、山内町で120世帯、その中で1日の利用者が両町とも大体220人ということでしたが、この結果について、どのようにとられておられるのか、お伺いします。

**○議長（牟田勝浩君）**

樋渡市長

**○樋渡市長〔登壇〕**

実際、みんなのバスに乗られた方とか、ごらんになられた方は、イメージがお浮かびになられると思うんですけれども、実際は7人乗り、8人乗りのミニバンでみんなのバスとしてこうやってこう運行しているんですね。中がどうなっているかという、こんな感じで（パネルを示す）3つの列に分かれていて、こういうふうに乗っていただいているということで

あります。

評価の件に関して申し上げますと、今、試験運行、実験運行でありますので、いろんな課題が出ました。その課題を、例えば、もっとここに寄りたいとか、もう少し時間帯を何とかしてほしいとか、あと、一部のところであると、例えば、これを早朝のスクールバスに移行してほしいとか、我々がちょっと想定していた以上のことが出ている。

これはもともと制度設計をする前に、追分の山下さんという方がいらっしゃって、その方は、御自宅に伺ったときに、やっぱりこういうふうにしたほうがいいんじゃないかということいろいろアドバイスをいただいて、それが本当に今、よかったかなと思っています。やっぱり現場の声や市民の声がひとつこれに結実をしていると。

昨日、答弁で申し上げましたけれども、公民館の活用で、これをみんなのバス、みんなの足としてできないかということで私が答えたところ、これは多くの方から、それはいいねという話もありましたので、まさにこの議会がそういうアイデアというか、そういう改善策を出していただいている一つの、本当に大きな原動力になっていると、この場をかりて御礼を申し上げたいと思います。

よりよきものにするために、課題を一つ一つ解決しながら、一步でも進めるようなみんなのバスの運営に図ってまいりたいと思っております。

以上です。

○議長（牟田勝浩君）

2番山口等議員

○2番（山口 等君）〔登壇〕

今回の事業予算について見ましても、補助金絡みで577万8,000円、運行経費がバス2台が3カ月稼働したところで240万円、このうち、人件費が約200万円と。それで利用者が約3,000人、それから見てみますと、1人当たりが約830円、この金額についても、いろんな検討が必要かと思えます。

また、現在運行されております乗り合いタクシーの見直し、バス路線との関連性、いろんな方面から検討も必要かと思えますが、今後どのような対応をしていくお考えなのか、そのあたりをよろしくお願いします。

○議長（牟田勝浩君）

山田政策部理事

○山田政策部理事〔登壇〕

みんなのバスにつきましては、先ほど申し上げましたように、約3カ月間にわたって実験運行をしてきたところでございます。

今後についてということですが、先ほど市長が言いましたように、いろんな課題がたくさんあるというふうなところで、課題を一つずつでも克服しながら、制度の充実に努め

ていきたいというふうに思っているところでございます。

○議長（牟田勝浩君）

2番山口等議員

○2番（山口 等君）〔登壇〕

私自身も運行をしてから1カ月目と、最後のほうのあと1日だけという2回、ちょっとバスに実際乗せていただきました。初めのころは「非常に助かっ」という意見が非常に多かったんですが、最後のほうは「ぜひ続けてほしい」ということで言われておりました。

そしてまた、最後のほうに乗ったときも、午後からではあったんですが、五、六人の方が乗車されて、いろんな意見も直接聞くことができました。

二、三例を挙げてみますと、「どがんでんまず助かっ」という言葉が第一声です。そして、「市役所まで行きんさっきほんによかばってんのう」と。そしてまた、「病院ば今まで半日かかいよったばってん、2時間ぐらいで済むごとなったものう」というようなことで、非常に助かって、続けてほしいということがほとんどでございました。また、「家族の人に今まで送ってもらいよったばってん、朝ばたばたしよんさっき、なかなか言いにくうして、どがんもされんやった。ところが、このバスの来とっけん、ほんに我が都合で行かるっごとなってよかった」という声が本当に聞こえました。このほかにも3カ月間の間にいろんな意見、要望があったと思います。そのあたりのところをお尋ねします。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

3カ月の間で意見、要望が多かったのは、やはり、もう少しバス停よりも自分の家に近いところで搭乗する、あるいは下車させてほしいということ。それと、先ほど申し上げたように、時間帯、時間ですよね。もう少しこの時間に来てもらうぎありがたかなと。「昼間回しても、もう閑古鳥しか乗とらんよ」ということも言われました。

それと行き先についても、これは北方の追分であった話ですけれども、もう少し、例えば、当該病院ではなくて、違う、ちょっと離れた病院に行きたいというような具体的な行き先の依頼であるとか、挙げれば、本当に切りがないぐらいに、それは活用していただいているからこそ出てくる課題だと思うんですよね。ですので、それは実は道路運送法上の兼ね合いであるとか、あと実際のタクシーの皆さんとの関係であるとか、あるいはバスですよね。実際の祐徳さんとかの一般のバスですよね——との連携であるとか、そういったことをちょっと考えながら進めていく必要があるだろうと思っています。おおむねそういう意味では、御批判というか、御指摘よりも、本当に喜んでいるという声が、間接、直接にもありますので、さらによくした形で4月以降のまた運行につなげていきたいと思っています。

今のところ、追分地区、焼米地区等の運行、そして今山地区については、私自身としては、

4月、また新たな形として、していきたい。これは要望も出ていますので、しっかりとした形でしていきたいというふうに思っております。

現在、武内町、若木町で運行をされていますので、それも今の段階でもいろんな御指摘等がありますので、それも踏まえて。

一たん、これは3月末にどういう結果だったかというのを、数もそうなんですけれども、どういう要望があったかというのを、もう1回きちんとアンケートをして、市民の皆様、議会の皆様方に広報、あるいは議会でちゃんとお示しをしたいと思っておりますので、また、これは本当みんなのバスなんです。ワンマンバスではありません。ですので、やっぱりみんな育て上げるような、これは本当に日本で初めての制度でありますので、皆さんと一緒に育てていきたいなというふうに思っております。

**○議長（牟田勝浩君）**

2番山口等議員

**○2番（山口 等君）〔登壇〕**

今言われましたように、今月の1日から1台加わって3台で今回運行されております。また、新たな問題もいろいろ出てくるかと思えます。しかし、これから先、高齢化社会というのは、どんどん進んでいくわけで、ぜひこの好評の事業を進めてほしい。ぜひ十分に検討されて、次年度も予算を確保していただいて、同じ地区を毎日回るといようなことはできないかもわかりません。このバスは、防犯パトロールといようなことも兼ねた相乗効果もあると思えますので、ぜひ継続事業として取り組んでほしいと思えます。

ここで私が聞いた町民の方の御意見を1つちょっと述べさせていただきます。

「私自身は今のところ、必要ありませんが、ひとり暮らしの方で、車の運転ができない方には、買い物、病院、役所行きなど、ぜひ必要かと思えます。また、家族がおられる方でも、外出等が少ない方には、このバスを利用することで、まちの様子、景色の眺め、季節感の移り変わりなど、ほかの方々といろいろな交流ができて楽しんでおられます。また、たくさんの元気、便利さを得ておられます」、このような意見もいただいております。

どうか、こういうことを含めまして、市長はどう見解をお持ちなのか、再度お願いします。

**○議長（牟田勝浩君）**

樋渡市長

**○樋渡市長〔登壇〕**

いや、思いもしないことが起きるんだなあとやっぱり思いましたね。

1つが、このみんなのバスの中が、ひとつのコミュニケーションの場になっているんですね。私も何回か乗りましたが、「きょう、あのおばっちゃん来とんされんよ、何かあったとやろか」とかですね、いいことなんですよ。あるいは運転手さんが地元の方なんで、非常によくわかれていて、「いや、あのおばっちゃん、きょうはちょっと娘さん家族の

来とんさっけん、きょうはこいに乗とんされん」とかね。「そいぎ悪口ば言おうかね」とかです。 (笑い声) いや、いいことなんです。よ。

だから、そういうふうにみんなのバスの中がひとつの何というんですかね、女性が多いという意味ではお茶講という言葉を使いますけれども、そういう本当にさっき周りの景色とか、風景とかもおっしゃいましたけれども、本当にいい空間になっている。

我々が気をつけなきゃいけないのは、それが固定にならないようにです。やっぱりそうなってくると、なかなか入りづらいというのがありますので、そこは本当に言い方は悪いかもかもしれませんけれども、新陳代謝も含めて、だから、ずっと同じルート、同じ人にならないようなことは、やっぱりしなきゃいけない。やっぱり一人でも多くの方々が、このみんなのバスで救われていただくようにしなきゃいけないのかなというふうに思っております。

貴重な御指摘ありがとうございます。

○議長（牟田勝浩君）

2番山口等議員

○2番（山口 等君）〔登壇〕

先ほども紹介しましたが、このバスは、ただ単に人を目的地まで運ぶというようなものではありません。バスの中での地域とのコミュニケーション、運転される方との会話ですね。また、移り行く景色、風景を眺めながら皆さんとの会話、また、ひとり暮らしの方のいこいの場として、多くの効果を呼んでいる事業だと思います。これが本当の地域づくりではないのでしょうか。この12月から、新たな地域が運行されております。いろんな諸問題が発生するかもわかりませんが、現行予算をフルに活用して、この事業、緊急雇用対策事業も来年度もぜひ続けてほしいと思います。

この事業はどうしても限られた地域での運行になってくるかと思いますが、十分に検討されて、運行形態が多少違ったとしても、ぜひ市民に望まれる足としての事業になるように、よろしく願いいたします。

次の質問に移らせていただきます。

旧市民病院の跡地の活用についてでございます。

前回、6月の議会にも質問いたしておりましたが、皆さん御存じのとおり、新武雄病院が国道34号線沿いに来年6月の開院に向け、着々と進んでおります。病院が移設した6月以降、今の病院の跡がどがんかとやろうかと、地元の皆さん方は、特に関心があるところでございます。

前回の質問の答弁では、跡地利用の検討会を立ち上げ、みんなの福祉センター等に活用していきたいという答弁がございました。その後、跡地活用についての進捗状況について、まずお尋ねします。

現在の病院は、巨樹の会の所有でありますので、いろんな対策についても、市のほうから

の要望、お願いになってくるかと思えます。あと半年もすれば、病院は移設してしまいます。こういったところを踏まえて、どうお考えなのか、よろしくお願いします。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

お答えをいたします。

現段階で、跡地利用の検討委員会の立ち上げは、まだしておりません。今は、その下ごしらえとして、川良の区長さんであるとか、関係の深い方と調整をしている段階であります。人選も含め、あるいはスタート時期、その内容について、今調整をしているところであります。いわゆるこれは準備をしっかりとしないと、後々やっぱり御迷惑をかけることになりますので、これはしっかりと下準備をしたいと思っています。

その中で、今、懸念として地元の方から出されているのは、耐震構造が大丈夫かということが出ています。せっかくこういうふうに使いたいけれども、耐震がクリアできなかつたら、それは絵にかいたもちにしかありませんので、それもあわせて、やはり我々としては、調べる必要があるだろうということも、今、懸念材料としてあります。

実際お願いがあるのは、1番議員の朝長議員、そして2番議員の山口議員におかれましては、一番近い武雄町の議員さんでありますので、ぜひ指導的な立場として、その会に入ってほしいなと思っています。頼りにしています。

その上で、先ほどありましたように、今、その建物自体が社団法人巨樹の会の所有となっておりますので、先ほどの御指摘のとおり、検討委員会の要望を私が受けて、私から社団法人巨樹の会の理事長にまたお願いをするという構図になると思います。

ただ、私は「みんなの政策集」にも掲げましたし、さきの選挙で、この建物は廃墟にしないということを明言しておりますので、有言実行内閣、どこかにもありましたけれども、有言実行を進めていきたいと思っています。

その際に、もう社団法人巨樹の会の鶴崎理事長とは、使わせてほしいということで、おおむねの了解はとっておりますので、ぜひ安心をして、その検討委員会でさまざまな意見を出してほしいなど、かように考えております。

○議長（牟田勝浩君）

2番山口等議員

○2番（山口 等君）〔登壇〕

わかりました。一日も早い検討会の開催を望むところでございます。

いずれにしろ、6月になれば病院が移設してしまいます。当面、空き家といえますか、そういう状態になるかと思えます。敷地内の防犯施設というか、安全施設というか、そういう立ち入り防止策とでもいいでしょうか、そういったところの要望もぜひ行ってほしいと思



ます。跡地活用とは直接関係はないかとは思いますが、現在の病院の裏山のことなんですけれども、県の土砂災害危険区域にも指定されております。以前にも砂防の工事の計画がされていたと思うんですけれども、なかなかいろいろな事情があって、着工には至っておりません。梅雨時期等には非常に危険な状態になっております。

私もことしの7月の中旬でしたか、大雨洪水警報が出ておるときに、この裏山を確認させていただきました。ほとんど道路が川のような状態で流れておりました。病院施設が移設すれば、いろんな形で工事もしやすくなってくるんじゃないかとも思います。この事業主体はどうしても県になってくるかと思えますけれども、今後、この病院跡地がどのような施設が来るにしても、下流側の地域の方の安全・安心の地域づくりとしましても、緊急の防災対策等も必要になってくるかと思えます。このあたりの取り組みについても、どういうお考えなのか、よろしくをお願いします。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

御指摘のとおりだと思います。

それで、ちょっとこれは私の考えじゃなくて、これは言われたことなんですけど、ある厚生労働省の方から、あそこがほんなこて病院でよかたですかと言われたことがあるとですよ。それはなぜならば、さっきあったような土木災害の危険性があるということで、せっかくけがば治しにやったら、余計ひどかけがば負うですよというところまで言われました。ですので、もうもともとやっぱり病院として適さんやったわけですね。

なおかつ、じゃあ何でそれをできないかといったら、実際治療をやっぱり命の危険性がある方々も多数入院されていまして、その方々を優先するためになかなか工事をし得ないということ、あと、騒音の問題とか環境の問題とかでできないといったことで、やっぱりもういろんなことを考えれば、これが適地としても、もうぎりぎり限界のところやったところというだと思います。

その中で、先ほど議員から御指摘があったように、一たんあそこが空になれば、先ほど言ったように土木の事業もできやすくなりますので、それはしっかり、これは県の事業になりますので、石丸県議、稲富県議を通じて、きちんと要望したいと思っています。

その中で、もう1つが、これ、本当に土石流の危険箇所にも指定されているんですね。ですので、災害パトロール、これは本当に人がいなくなると——人がいれば、あ、あそこがちょっと音がしよるとか、いろいろありますけど、いなくなると、実際、もう大きな被害になってからしか気づかないというのはありますので、災害パトロールの実施を関係機関に働きかけてまいりたいと、このように考えております。

以上です。

○議長（牟田勝浩君）

2番山口等議員

○2番（山口 等君）〔登壇〕

いずれにしましても、この跡地は、昭和17年に佐賀県の結核療養所ということで創立をして、昭和27年には国立武雄療養所ということになっております。そしてまた、かつては、昭和26年のことなんですけれども、秩父宮妃殿下ですね、この方も患者さんの慰問に訪れたという経緯があるところでございます。一貫して人の往来があったところでありますので、私自身もこのグラウンドで遊んだ経験もございます。

こういったところで、そんな思い出がたくさん残っている場所でありますので、ぜひ皆さん方が潤うような有効な施設をぜひよろしくをお願いします。

そしてまた、病院の裏山の土砂流出対策についても、地元の方の了解、協力を得ながら、地元県議と一緒に進めていきたいと思っております。

ちょっと時間がですね……。

○議長（牟田勝浩君）

はい、わかりました。

質問の途中ですけれども、議事の都合上、午後1時20分まで休憩いたします。

休	憩	11時55分
再	開	13時19分

○議長（牟田勝浩君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問を続けます。

執行部から4番山口裕子議員の質問に対する答弁で、補足説明をしたいということで申し出がっておりますので、先にこれを許可したいと思います。刈野営業部長

○刈野営業部長〔登壇〕

4番山口裕子議員の質問で、排水不良というのは排水対策、暗渠排水についてという御質問がございました。私、答弁で暗渠排水対策が2分の1補助の市単独改良事業がありますと回答いたしましたので、説明不足でしたので、補足をさせていただきます。

暗渠排水対策そのものは、市単独改良事業では対応できません。しかし、水田の湿田対策で、山側からの湧水を拾う排水路の整備は、受益者2戸以上ある場合は市単独改良事業で対応できます。

以上です。

○議長（牟田勝浩君）

質問を続けます。

2番山口等議員の発言をお願いします。2番山口等議員

○2番（山口 等君）〔登壇〕

市民病院の跡地の活用については、先ほど言いましたように、皆さんが潤うような施設の有効活用をぜひお願いして、先ほど市長も言われました防災パトロールの実施をお願いしたところで次の質問に移らせていただきます。

最後の質問ですが、健康増進についてであります。

現在、武雄市の人口、約5万1,000人のうち、25%に当たる約1万3,000の方が65歳の高齢者であります。4人に1人は高齢者ということになるわけなんですけれども、そんな中で、現在、要支援、要介護を受けておられる方、実際どれくらいおられるのか、お尋ねしたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

古賀くらし部長

○古賀くらし部長〔登壇〕

要介護、要支援の認定されている方々ですけれども、現在、平成21年度の数字で申し上げますと、2,563人というふうになっております。

○議長（牟田勝浩君）

2番山口等議員

○2番（山口 等君）〔登壇〕

高齢者の方が、約20%ぐらいの方が、要支援、要介護を必要とされておりますが、これから先、ますます高齢化社会が進んでいくかと思えます。高齢者の健康づくりと伺いますか、また、健康の保持について、市としてどういう取り組みをなされているのか、お尋ねいたします。

○議長（牟田勝浩君）

古賀くらし部長

○古賀くらし部長〔登壇〕

現在、市のほうでは、健康づくりということで、たっしゅか体操、それから、ころばん体操、こういった体操をつくりまして普及に努めているというところでございまして、この体操の内容につきましては、広報でもお知らせしておりますが、ケーブルテレビで内容等を、体操の仕方等々について流しております、そのほか、老人クラブさんとか、そういったところで普及に努めているというところでございます。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

部長の答弁に補足をいたします。

これに加えて、新武雄病院においては、これはこれからの部分がありますけれども、例え

ば、健康講座の一環として、食事の講座、あるいは歩き方の講座、生活習慣病を防ぐような講座等々の健康講座を拡大をしていきたいということ、もちろん、これは無料です。和白病院においても、それが和白病院の大きな事業の1つでありますので、これをぜひ新武雄病院においてもそのように行って、市民に親しまれる病院を目指したいということが1つ。

それともう1つが、先般できました佐賀新聞の文化センター、カルチャーセンターがメリーランドにできていますけれども、ここでヨガを初めとする軽運動であったりとか、あるいはさまざま体を動かすような講座も拡充していくということですので、官民あわせて、市民の皆様方の健康づくりに一役、二役買いたいなど、このように考えております。

○議長（牟田勝浩君）

2番山口等議員

○2番（山口 等君）〔登壇〕

この2つの体操を今言われましたけど、市民の方にどれだけ浸透しているのか、そのあたりのところをお尋ねいたします。

○議長（牟田勝浩君）

古賀くらし部長

○古賀くらし部長〔登壇〕

周知が余り進んでいないというふうには思っておりまして、これからますます周知をしていきたいというふうに思っております。

今考えておりますのは、例えば、老人クラブで、いろんなグラウンドゴルフとかゲートボールとかある際に、準備運動の一つとして、そういった体操をしていただくとか、そういったものも考えておりますし、出前講座とか、そういったものをどんどんしていきまして、実際にこの体操を目で見て、実際触れていただくということで周知を図っていきたいというふうに思っております。

○議長（牟田勝浩君）

2番山口等議員

○2番（山口 等君）〔登壇〕

国保の医療費関係で見えますと、65歳以上の医療費が、武雄市の国保全体の総医療費で見ますと、平成20年が約42億4,000万円、そして、昨年度の平成21年度が44億9,000万円、そのうち、65歳以上の方の総医療費が平成20年度は21億5,000万円、21年度が24億9,000万円と、65歳以上の方の保険料が50%以上になっておるような状況でございます。

また、国保の保険者の1人当たりの年間医療を見えますと、65歳未満が1年間約21万円、65歳以上の方が56万円ということであります。健康管理については、高齢者の方に限らず、若い人も日々健康づくりに取り組まれているかと思っておりますけれども、ここにおられる樋渡市長も、毎日ジョギング等をされて、健康の保持に努められております。

また、最近では、非常にウォーキングをされている方も多く見られます。これは私の近所の八並区ではあるんですが、朝の6時半のラジオに合わせて、ラジオ体操をされている元気なおばあちゃんのグループがあります。私も参加したことがあるんですけど、もう随分前から続けられているそうです。

また、朝のあいさつをした後、体操をして、その後のお茶会といたしますか、そういうひとときを長く続けておられて、このおばあちゃん方のお話を聞いたところ、「この体操ばせんぎ、1日の始まらんものう。そして、お茶会ばして、1日ば楽しく過ごしていきよっ」というふうなことで、生き生きと話されておりました。

私もこの方たちから数多くのパワーをいただいております。高齢になりますと、どうしてもひざが痛い、腰が痛いというようなことが出てまいりますけど、このラジオ体操は、体の200以上の筋肉等を使って動かすというようなことも言われておりますので、ここで提案なんですけど、朝のチャイムにこのラジオ体操を鳴らすことができんのかなあというところがございます。流す時間とか、そういったこともあるかと思っておりますけど、そしてまた、今の曲目、流す時間帯、そういうことについてまずお尋ねします。

**○議長（牟田勝浩君）**

角政策部長

**○角政策部長〔登壇〕**

お答えいたします。

朝の一斉放送の時間帯と曲名でございますが、まず午前8時、朝に「こんにちは大きな木 こんにちは地球」というメロディーを流しております。これは児童文学作家の工藤直子先生の作詩で、合唱曲をよく作曲されている新実徳英先生の作曲の曲で、これは市制50周年に合わせて、やまびこが制作した曲でございます。これは午前8時と正午に流しております。

それから、午後5時、または6時に鳴らすところもございまして、「夕焼け小焼け」を流しております。これは市の婦人会のほうから御要望がございまして、これを流しているというところがございます。

**○議長（牟田勝浩君）**

樋渡市長

**○樋渡市長〔登壇〕**

このチャイムについては、私が市長に就任させていただいて以来、各種団体の要望を踏まえてこのようにしたんですけども、やっぱりラジオ体操にするとしたときには、やっぱり多聞第一、老人会であるとか、婦人会であるとか、まちづくり協議会であるとか、さまざまな意見ばやっぱり聞く必要があると思います。これは行政が一刀両断にするということになると、やっぱりそれはよくないというふうに思っておりますので、それは議員の貴重な提言として受けとめたいとは思いますが、

ただ、私もいろいろ聞くですね。特に私は武雄町の西浦に住んでいますけれども、「朝8時は早かばい、もうあが早うから鳴いよっぎ」と。私なんかは、もう朝に6時に起きつけんですよ、もう朝8時はしゃっきりなつとるばつてんですよ、今、例えば、夜勤務される、これは男女を問わずいらっしゃるといったときに、8時の段階といたら、まだ就寝されている方って、結構やっぱりいらっしゃるんですよ。例えば、マンションにお住まいの方とか、アパートにお住まいの方で。その方にもう直撃するということなんですね、あいは何とかできんかということ。

それと観光客の皆さんで、やっぱり「もう少しゆっくりしたかどに8時になつぎんた、もうそれは生活と変わらん」ということがあったりとか、あとよく聞くのは、12時にウォーって鳴っですね。「ここは戦時体制か」と言われたことがあります。あくまでも観光地ですので、そういうのを毎日毎日鳴らす必要があるのかということも言われていますので、いろんな意見がやっぱりあるなと思っています。

特に私は12時の毎日毎日あのサイレンを鳴らすことが本当に必要なのかということについては、私自身もまだ議論の輪に加わりたいと、このように思っております。

○議長（牟田勝浩君）

2番山口等議員

○2番（山口 等君）〔登壇〕

曲目とか、流す時間などについては、多方面の団体等の許可等も必要になってくるかと思えますけれども、防災無線を使用するのがいろんな問題であるのであれば、各地区に地区のといひますか、放送設備を持ったところがあるかと思えます。そういったところでは、まずモデル的にも取り組まれたらどうかなという提案もあるんですけど、どうでしょうか。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

いや、それは本当にいいと思いますよね。例えば、橘町の、あそこは、朝日新聞に大きく載ったところ、大日（「大日です」と呼ぶ者あり）ですよ。大日地区は、あれは演歌の流れよつとですよ。演歌がこう流れて、それが非常に朝日新聞に大きく取り上げられていて、そういう意味で言うと、それはやっぱり地域らしさってあると思うとですよ、地域らしさって。ですので、そういう意味で、ラジオ体操がいいということであれば、それはどんどんやっぱりやってほしいなと思いますよね。それは我々が、いや、こうすべきだとかじゃなくて、そういう地域の皆さんが大日地区のように、こういうふうにしようと、したいということは、我々としては尊重すべき立場にあるだろうと思っております。

そして、私はこれは議員と見解が違ふかもしれませんが、ラジオ体操の場合は、結構昼休みですよ、運動されたりする企業の皆さんとか団体の皆さんがいらっしゃいますので、

そういう時間帯、朝、ラジオ体操がジャーンで流れるよりは、お昼、ちょっとお休みモードのときに、ちょっと体ば少し動かそうと、お昼の前後にですね——というほうがいいのかなあと思ったりもします。

以上です。

○議長（牟田勝浩君）

2番山口等議員

○2番（山口 等君）〔登壇〕

今、市長が言われました大日地区の区長さんにこの前、お話を聞く機会がありました。それで、今言われたように演歌を鳴らして、いろんな連絡事項等をされております。それももう50年以上ずっと続いているというふうなことで、その方たちの周辺にも毎日やっぱり散歩しておられるような方もおられますので、散歩の途中でもそういったラジオ体操等が流れば、立ちどまって、違う筋肉を使うとか、背を伸ばすとか、そういうひとときもあつたら、気持ちよく1日が送れるんじゃないかなと思ったところで提案した次第です。

年々、高齢化は進んでまいります。介護保険料、また、医療費の増大も今後ますます厳しくなっていく今日ですけど、だれもが健康管理、健康の保持には努めていかなければなりません。先ほど紹介しました朝のラジオ体操をされているグループの集まりのようところが、また数多く出てきて、毎日が生き生きと楽しく、また明るく生活できるように、一つの手段としてこのラジオ体操が取り組まれて、またどこかの地域でそういった一斉のラジオ体操ができるようなことでも検討していただければなあということをお願いしまして、私の一般質問を終わらせていただきます。